

謹啓 　いつのまにか秋もいよいよ深まり、寒くなってまいりました。また、コロナが幸いにも、急速に収まってきました。お元気におすごしのことと存じます。

さてこの度、亡くなりました翌年の2016年11月23日に刊行しました『一瞬と＊を重ねて一信子の生涯』（思文閣出版）の英語本“The Life of Nobuko” (Rennissance Books)が完成し、英国から送られてきましたので、贈らせていただきたく存じます。妻の7月29日の命日（七回忌）に完成したのですが、8月上旬に届きました本を見まして、印刷に不備があることがわかり、やり直しました。大変でしたが、元の写真や画像・地図のシャープさを再現でき、嬉しくほっとしております（書のうち3『太源』掲載のものは縮小率の大きな写真の引き伸ばしですので、これが精一杯でした）。

上記原著の写真の枚数を大きく減らし、かつ、2014年の写真集『ツイン・タイム・トラベル イザベラ・バードの旅の世界 In the Footsteps of Isabella Bird: Adventures in Twin Time Travel』の姉妹編的な要素ももつように、1994年（5期）以降の写真の比重を高めました。また、妻が写真に付けていたキャプションを翻訳し地（バグ）をアミフセにして示すだけでなく、個々の写真から日本の文化や伝統などの一端がわかるように青字のキャプションを加え、個々の写真の情報量を増やして、日本のことを知らない読者に楽しみ、わかっていただけのようにしました。

長くお世話になってきております水谷一彦さんのお力添えで、写真に関わる場所に関する地図を入れ、両者をリンクさせて見るのが可能になりました（地図は個々の写真の情報量を増やすと同時に多数の写真の索引になりました）。年表を加え、妻が生きた時代の流れも示してみました。エッセーにも注を付すことによって日本に関する知識のない読者でもわかるものにしたつもりです。4ヵ国21人の方々からいただきました信子を偲ぶお言葉で飾ることができ幸せなことでした。ようやく完成に至りましたのは、日本語版に引き続いて膨大な画像の作成・編集や大量のゲラ＝PDFデータの英国への送信などに尽力くださった京大前の写真館鈴木マイクロフィルム研究所の鈴木高穂さんや、「ユニークで挑戦的な作品」と言って努力くださった出版社主ポール・ノーバリーさんと翻訳者ニコラス・パートウィーさん、そして書道でお世話になった澤坂里美さんのおかげです。

必ずしもよいことばかりがあったわけではない生涯を頑張って生き抜いた信子の人生の一端を記録に残せましたことは、人文地理学を「人間活動とその所産の地域的存在様式を究明する科学」とまったく独自に規定して研究・活動をしてきた私からしますと、その一部であるバードに関する研究やさらにその一部としての写真展などの活動にも相通じる点でよかったと思っております。旅を中心とする活動や、旅行記や旅で撮影した写真のような活動の所産という同時代資料に基づいてバードの生涯＝ライフヒストリーを多面的に解明する仕事はバードの偉大さあってこそ有意義であるのとは比すべくもありませんが、本書を平凡な一個人の写真と活動とその所産という同時代資料に基づく珍しいライフヒストリーとみなし、以上のことを頭の片隅において眺めていただければありがたく存じます。

人生に難事はつきものですがそれに打ち克ち、ごく一端ながら本書に記録として残せた「過去」の一瞬一瞬を力として夢と希望をもって研究を進め、旅、とくにバードの旅のツイン・タイム・トラベルを楽しみながら、元気に生きていきたいと思っています。拙宅の近くにいらっしゃる機会がありましたら、玄関や階段・廊下がミニギャラリーになっておりますので、お立寄りいただければうれしく存じます。

コロナが終息しつつあるとはいえ、完全にマスクなしの生活にいつ戻れるかわかりませんが、どうか寒さにお気をつけになられ、お元気にお過ごしくございますよう。 謹白
令和3（2021）年11月吉日

金坂清則拝